

6 近年建設した県営住宅

—県内各地の住宅団地—

1 村井住宅団地(白山市・旧松任市)建替



村井住宅団地は、県内初の混合団地の建替事業として、昭和60年度～63年度に整備された。

県営96戸と市営52戸の計148戸の団地となっている。

団地の東西方向に車と分離された中央街路を配置し、対面アクセスする町屋型住棟とするとともに、中央部を「広見」とし、団地内外の融合に配慮した。板塀(アテ)、九谷五彩タイルによるコミュニティサイン等、人と地域文化との融合を図っている。

平成元年度には中部建築賞、平成3年度には建設大臣賞を受賞している。

2 若草住宅団地(金沢市)建替



若草住宅団地は、周辺は住宅地との融合を図るため、金沢の文化風土を取り入れた黒瓦と友禅文様の住宅サインとし、また両面にバルコニーを配し、裏の顔のよい住棟としている。

住宅内部は、2階以上を将来の世帯構成変化に対応し得る変更可能住宅とし、1階はすべて高齢

者対応住宅である。

昭和63年に金沢都市美文化賞を受賞している。

3 けやき住宅団地(金沢市)新設



金沢市の海岸部に位置するけやき団地は、全6棟100戸で構成されている。新規団地として、平成5年度から10年度にかけて整備し、若年層ファミリー世帯向けのメゾネット型2LDKとフラット型3LDKを供給している。

分散型街路とし、団地内および外周を回遊できるようにし、広見を設けている。

4 川辺住宅団地(小松市)建替



川辺住宅団地は、住宅地に建つ中層の住宅団地である。

簡易耐火平家、二階建ての住宅から、平成6～10年度にかけて、緩やかな勾配屋根をかけた、鉄筋コンクリート造3.4階建て6棟に生まれ変わった。この建替事業にともなって、「一針」団地から、川辺団地と名称を変更した。

5 正院住宅団地（珠州市）新設



正院住宅団地は、平成5（1993）年2月に起こった能登沖地震の災害復興として、県営5戸、市営5戸の計10戸、2戸1棟として5棟建設された木造住宅団地である。

県内産の黒瓦で切妻型の屋根や、能登の様式を生かした押縁下見板張として、周辺の民家への調和となじむように計画している。住戸玄関先には、珠洲焼のサイントイルを用いるなど、随所に珠洲らしさを盛り込んでいる。

6 四丁町住宅団地（小松市）建替



敷地に、緩やかな傾斜のあったため、各三層として高低差を生かした住棟計画としている。

1LDK 5戸、2LDK12戸、3LDK 3戸の計20戸および生活相談団らん室等を整備している。

7 笠間住宅団地（白山市・旧松任市）建替



高齢者単身世帯から大家族世帯まで、多様な家族構成の入居に対応するため、1LDK～3LDKの21戸を供給した。

隣接する市営住宅と同時に整備を行い、市で集会所を整備するなどして、地域の住環境の向上を図った。

8 泉野住宅団地（金沢市）建替



昭和39年に14戸建設された特別県営住宅を、1棟15戸に集約化して建替事業を実施したものである。1LDK 6戸、2LDK 9戸、計15戸を整備した。

事業にあたっては、整備の効率を上げ、1棟として建て替えるため、旧警察官舎の土地を県営住宅用地として取得し、敷地形状を変更している。